

F- 1 ページ

(法第28条第1項)

2021 年度の事業報告書

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

1 事業の成果

- ① の事業では、千葉県・茨城県・福井県・静岡県・山梨県・船橋市・柏市の 7 自治体の保健所から、犬 266 頭、猫 591 頭の合計 857 頭を引き取り保護した。また前年度に引き続きスタッフ教育の強化を行った。なお施設の増改築は修繕およびメンテナンスにとどまった。
- ② の事業では犬 274 頭、猫 549 頭の合計 823 頭を新しい飼い主に譲渡した。飼育管理効率の指標である保護から譲渡までの平均滞在日数は、犬(29)日、猫(54)日であった。また保護後の死亡率は犬(0.4)％、猫(5.2)％であった。また譲渡した犬のうち、少年犬および成犬(※)は17頭、生後1年以上の成猫は50頭であった。 ※生後半年以上を少年犬、1歳以上を成犬と称する。 ※本年度以前に保護した動物を含む。
- ③ の事業では、幼齢不妊手術に関するホームページの訪問者数はのべ約1万1千人、飼育やしつけに関するホームページの訪問者数はのべ約43万5千人であった。
- ④ の事業では①で保護した犬268頭、猫548頭と、外来の犬1頭、猫23頭の合計840頭に不妊手術を実施した。 ※本年度以前に保護した動物を含む。
- ⑤ の事業では、より多くの方に向けて情報を発信するため、動画での活動報告や犬猫の紹介を開始した。なお、全事業の合計ホームページ訪問者数はのべ約386万人であった。
- ⑥の事業では、新規事業開拓のためのニーズの調査、分析等を実施した。
- ⑦の事業では、損保代理店として、ウェブサイトを通じた保険の販売、情報提供などを実施した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
①行政施設で殺処分される犬猫を引き取り保護・飼育する施設(アニマルシェルター)を運営する事業	保健所や愛護センターなどの行政施設で殺処分直前の犬猫を施設に保護して、譲渡のための健康管理やしつけ等を行う。 また、譲渡が困難な犬猫については、施設で生涯飼育する。	随時	法人事務所	12名	千葉県、茨城県、福井県、静岡県、山梨県、船橋市、柏市の7自治体

F- 2ページ

②行政施設から引き取った犬猫に不妊手術を施し、新しい飼育者へ譲渡する事業	前記事業で保護した犬猫たちに不妊手術を施し、新しい飼い主に譲渡する。	随時	全国	10名	犬猫の飼育を希望する不特定多数
③幼齢避妊去勢手術の普及と犬猫の適正な飼育を啓発する事業	団体ホームページで幼齢不妊手術についての情報提供や啓発を行う。	随時	法人事務所	2名	不特定多数
④幼齢避妊去勢手術を主たる目的とした動物病院事業	団体が保護中の犬猫の不妊手術および、保護団体や個人が保護する犬猫を対象に、幼齢不妊手術外来を提供する動物病院を運営する。	随時	法人事務所附属の動物病院	5名	犬猫を保護する団体や個人
⑤この法人の特定非営利活動に係る事業に関する情報提供・サービス事業	主にインターネットを通じて、前記事業すべてに対する情報発信を行う。	随時	法人事務所	3名	不特定多数
⑥その他この法人の目的の達成のために必要な事業	新規事業を模索し、開拓し、立ち上げるために必要な調査・研究・準備等を行う。	随時	全国	1名	不特定多数

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数
⑦損害保険代理業	事業を通して飼い主と動物にとってより良い生活の助けとなる保険代理業を実施する。	随時	法人事務所	2名

以上

2021 年度 活動報告

いつも当団体活動をご支援くださり誠にありがとうございます。2021 年度の活動報告をさせていただきます。なお前年度から状況に大きな変化がないため一部のみ改訂して掲載させていただきます。

<犬と猫の保護と譲渡について>

年度目標	受入数	譲渡数（うち成犬・成猫）	平均滞在日数	死亡率
犬	-	-（100 頭）	30 日以下	5%以下
猫	-	-（50 頭）	60 日以下	10%以下
合計	-	1000 頭（150 頭）		

今年度は年間の譲渡目標を犬猫合計 1000 頭としておりました。また増え続ける成犬・成猫たちにもチャンスを増やそうということで、そのうち成犬 100 頭、成猫 50 頭の譲渡も目標としていました。これらを実現するための目安として、譲渡までの滞在日数と死亡率の目標も立てていました。結果は下記の通りでした。

実績	受入数	譲渡数（うち成犬・成猫）	平均滞在日数	死亡数／死亡率
犬	266	274（17）	29	1／0.4%
猫	591	549（50）	54	31／5.2%
合計	857	823（67）	-	-

※譲渡数には当年度以前に保護した子を含みます。

概要

目標であった年間 1000 頭の譲渡目標には 177 頭届かず、前年度に引き続き難しい状況が続いています。うち成犬・成猫の譲渡は猫 50 頭と達成することができましたが、犬は達成することができませんでした。

全国的に殺処分が減少傾向にある中でのことですので、ネガティブな理由だけではありませんが、ここ数年取り組んできた譲渡が困難な成犬問題については、譲渡だけでは殺処分ゼロを実現できないことを改めて実感しました。

なお、施設の来客者は犬面会が 831 件（譲渡率 33%）、猫面会 939 件（譲渡率 58%）でした。

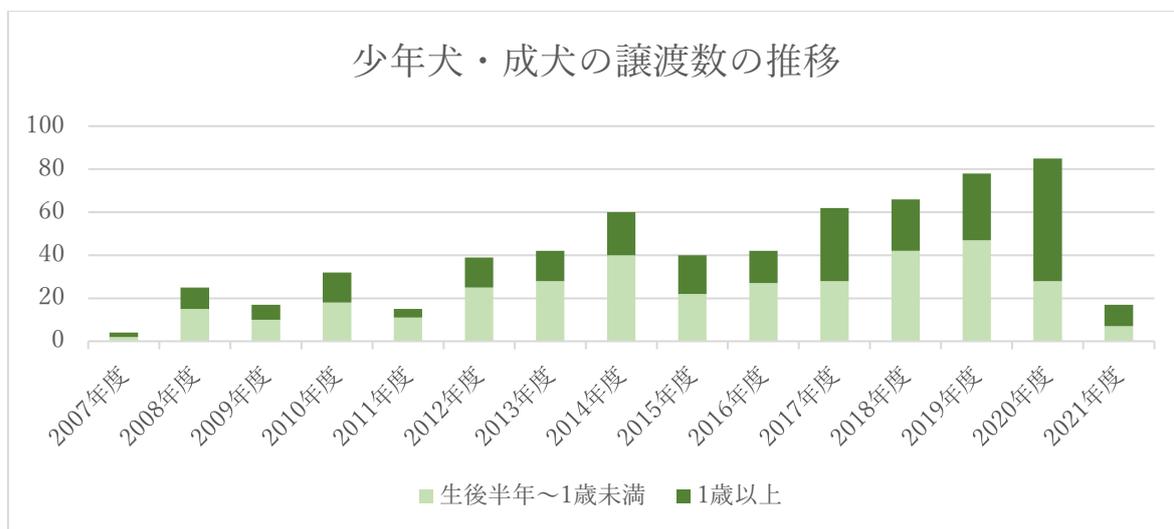
※ウェブサイトからのお申込を機械的に集計し、名寄せはせず再お申込は重複カウントしています。

犬について

犬	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
受入	557	460	634	510	329	266
譲渡	531	476	575	523	390	274
死亡	3	3	12	8	7	1
死亡率	1%	1%	2%	2%	2%	0.4%
滞在日数	32日	28日	35日	37日	30日	29日

犬の受入の減少は近年の殺処分減少によるものです。当団体が受入を行っている自治体のうち千葉県・茨城県を除けば犬の受入の要請がほとんどなくなりました。千葉県・茨城県はまだまだ保護数の多い自治体ですが、とりわけ譲渡しやすい子犬や純血種の犬については飼育希望者が順番待ちをしているような状況ですので、解決の目鼻はついていると言えます。

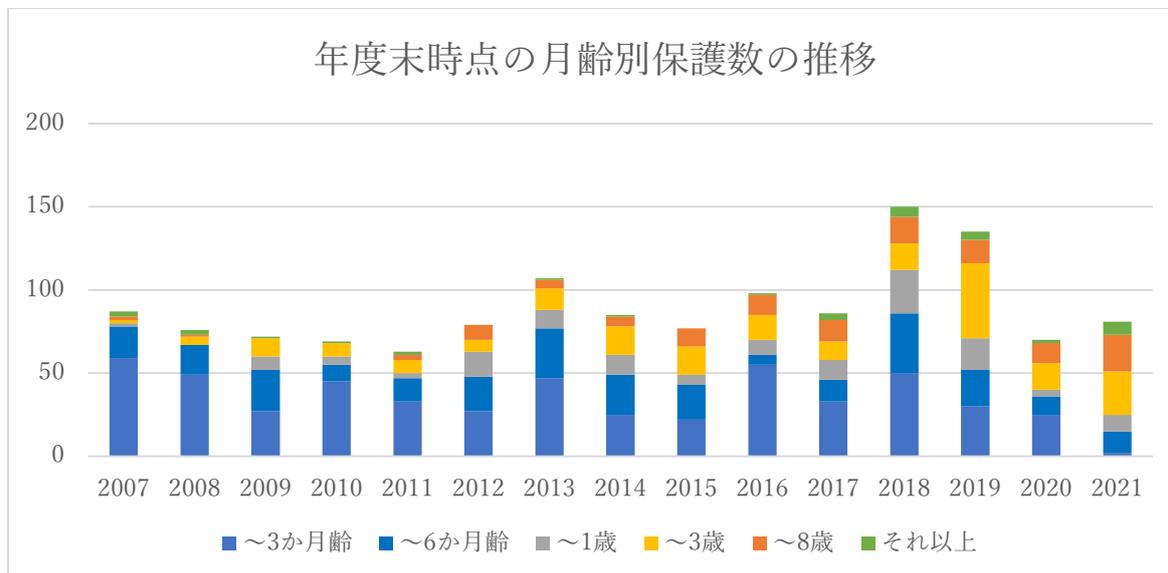
当団体では犬の殺処分問題解決の最大のハードルは野犬の問題だと考えています。今でも特定の地域では野良犬の集団が住み着いていて、人間が保護することの出来ないまま繁殖しています。そうした地域出身の犬たちの中には、性格が臆病で譲渡が非常に難しい子が沢山います。



こうした状況を見据えた第一歩として、野犬とまでは言えないまでも性格が臆病で譲渡が難しい少年犬・成犬の保護と譲渡にチャレンジしてきました。お陰様で前年度は過去最多の 80 頭を超える成犬を譲渡することができました。しかし今年度は 17 頭の譲渡にとどまっています。これは譲渡が難しい中でも比較的飼育がしやすいと思われる子たちには一通りご縁があった結果です。

F- 5ページ

ここからさらに犬の殺処分を減らすためには前述の通り野犬問題の解決が必要です。人慣れが極度に困難であったり、人を咬む危険があって容易に扱えない犬たちをどう助けるのか？という難題に対して答えを見つける試みを続けて参ります。



※あくまで各年度末時点での瞬間値ですが、少年犬・成犬の割合が増え続けています。

譲渡促進のために2019年開始したインスタグラムは、約3年経った今では4000人近い方々にフォローしていただいています。また本年度から動画での活動報告や犬猫の紹介を開始しました。もちろん写真や動画を見て「可愛い」と思ってもらえることと、実際に引き取ることの間には大きなハードルがありますが、小さなチャンスの積み重ねだと捉えて継続しています。

譲渡が進んだ一方で、その臆病な性格ゆえに逸走事故が散見されるようになりました。一度逃がしてしまえば保護するまでには膨大な時間と人手が必要になります。この状況を少しでも改善するため、怖がりな犬に限定してGPS首輪の貸し出しを行っています。幸いというべきかGPSが活躍した場面(≒逃げた)はありませんが、備えとして継続して参ります。

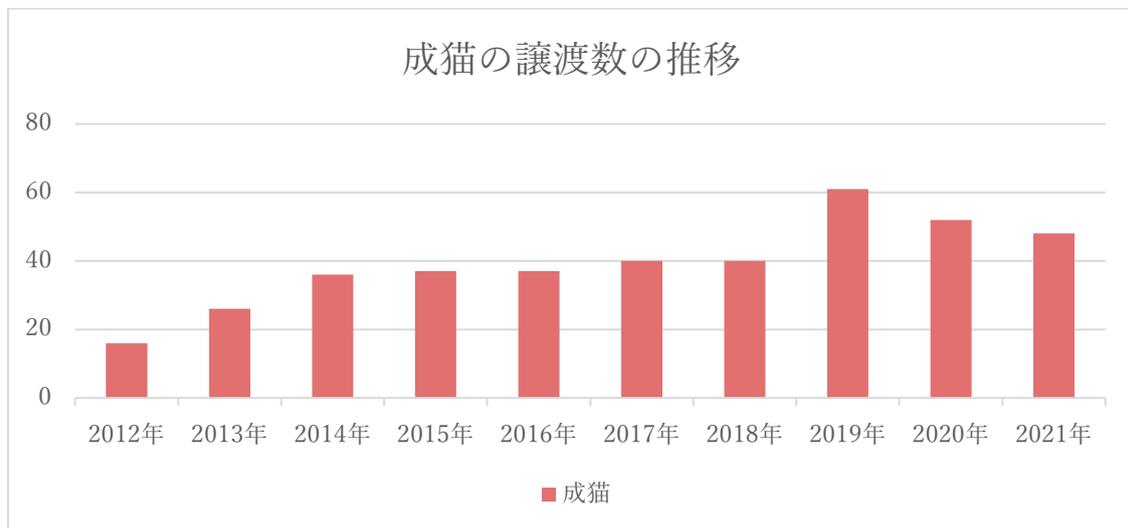
猫について

猫	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
受入	654	822	810	770	560	591
譲渡	616	716	723	731	509	549
死亡	37	87	64	48	62	31
死亡率	6%	11%	8%	6%	11%	5%
滞在日数	66日	85日	97日	81日	71日	54日

F- 6ページ

猫も前年度程度の受入および譲渡にとどまる結果でした。犬同様、保健所に持ち込まれる数が減り、必然的に当団体への受入要請も減ったことが主な原因ですが、なぜ持ち込みが減ったのかは定かではありません。ある保健所職員によると、新型コロナの影響で外出する人が減り、結果として野良猫を発見して持ちこむ機会も減ったのではないかとのことでした。※猫は保健所が捕獲を行わないため子猫を拾ってしまった方の持ち込みが多くを占めます。

猫についても譲渡しやすい子とそうではない子がいます。本年度はあまり見ていただく機会のない猫たちを動画で紹介する試みを始めました。幸い成猫は一定の数の譲渡が実現できていますが、例えば猫エイズや猫白血病のキャリアであったり、重い疾患を抱えていると譲渡が難しいのが現実です。引き続き譲渡の促進と、施設で少しでも快適に暮らせるよう対策を行って参ります。



※2011年度以前は年齢データが不足しているため割愛しています。

<外来不妊手術について>

年度目標は50頭に対して24頭と達成することができませんでした。もっと保護活動をする方の力になりたい思いはありますが、施設内の動物の医療を優先した結果ですのでご了承いただければ幸いです。

<人材教育・人材活用の強化について>

2019年度後半にスタッフ教育の強化に着手してから2年以上が経過しました。元々時間がかかるとわかっていたことですが、前進と後退を繰り返しながら少しずつ前に進めています。ここ最近になってようやく芽が出始めたことを体感できるようになりました。活動をレベルアップするために引き続き取り組んで参ります。

＜施設設備の改善や新設について＞

皆様のご支援を受けて 2012 年に施設を移転してから早いもので 10 年が経ちました。本年度が期限であった土地の定期借地契約も無事に更新できましたので、随時改修や改善を行っているところです。

＜新型コロナへの対応について＞

施設内での密状態を避けるため犬猫ともに面会件数と時間を制限し、当然感染対策も行った上で面会を実施してきました。施設に来て会っていただくことが大切なこの活動においては苦しい制限でした。しかし一方で、来客が減ることで里親さんへのヒアリングには以前よりも時間をかけられるようになりました。また会議をリモート化するなど、働き方・時間の使い方を見直すきっかけにもなりました。心配なことは沢山ありますが、転んでもタダでは起きない精神で今後活かして参ります。

以上が 2021 年度の活動報告です。

今後とも皆様のご支援ご声援をよろしくお願いいたします。

2022 年 5 月吉日

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

理事長 稲葉友治